

内閣府は、我が国が目指すべき未来社会の姿として Society (ソサエティ) 5.0 を提唱した。サイバー空間 (仮想空間) とフィジカル空間 (現実空間) を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会を目指す、というものだ。

IoT (モノのインターネット)、AI (人工知能)、ビッグデータ解析、5G (高速通信規格)、ロボット工学などの先端技術の人々の暮らしと結びつけること

で、格差がなく、多様なニーズにきめ細かく対応する。そこでの自動車業界の取り組みのひとつが、自動運転の実用化・普及拡大である。自動運転により、交通事故

改善やコスト低減などが見込める。高齢化や人手不足の解消、地域間格差の是正といった社会課題を解決することで、すべての人が質の高い生活を送ることが可能な社会が見えてくる。これは、走りの性能を追求するという従来の概念だけでは描けなかった未来だ。自動車という「モノ」づ

脱・機械が動かす世界

今年進む自動車の「脱」(1)

くりの発想から、社会課題を解決する手段として自動車をとらえる「コト」づくりの発想への切り替えが不可欠だ。トヨタはすでに自動車の製造販売からモビリティサービスへのシフトを

故の低減や渋滞の削減の可能性を広げるとともに、高齢者や移動制約者のモビリティの確保、物流・移動サービスのドライバー不足の

車をとらえる「コト」づくりの発想への切り替えが不可欠だ。トヨタはすでに自動車の製造販売からモビリティサービスへのシフトを

うたっており、急速に変化する日は遠くないだろう。このような状況下に先んじて対応するか否かで自動車メーカーはもとより、サプライチェーン全体を含めた自動車業界の今後が左右されると思われる。それで

づくりなど、開発思想の転換は必要不可欠だ。環境問題も見逃せない。昨年英国で開催されたCO2 P26において、自動車産業は気候変動に深く関わる分野と位置づけられ、脱炭素に取り組む姿勢が大きな注

目を集めた。昨年弊社の自動車チームに寄せられた相談で、多くの企業が3点についての悩みを語った。「炭素」「ハードウェア」「調達」への対応だ。まさに従来の自動車づくりから変わらなくてはいけない「脱」がキーワードとなっている。



石倉 拓史 (いしくら・たくし) コンサルティング事業本部戦略コンサルティング部 Auto Sector コンサルティング室長

は「どうすればいいか。自動車の付加価値は、従来のメカニカル技術から、エレクトロニクス、ソフトウェア技術にシフトしている。ソサエティ5.0では、そこで得られるビッグデータをいかに社会課題解決に生かすか、といったデジタルプラットフォームへの進化、それに対応する部品

今年企業としてどのような年にしたいか。その答えはさまざまであると思えるが、次回より三つの「脱」について今後に必要なと思われる考え方や課題解決などを提案したい。従来の延長線にはない、新たな視点による「脱」活動を新年早々から意識して始めることで、ますます加速する世の中の変動に対応できるはずだ。(毎週木曜日掲載)

